

石川啄木の短歌

東海のとうかい小島のこじま磯のいそ白砂にしらすな

われ泣なきぬれて

蟹かにとたは(わ)むる

ふるさとのなまり訛なまりなつかし

停車場ていしやばの人ひとごみの中になか

そを聴ききに行く

はたらけど

はたらけど猶なおわが生活くらし楽らにならざり

ぢつと手てを見みる

友ともがみなわれよりえらく見みゆる日ひよ

花はなを買かい来きて

妻つまとしたしむ

かにかくにしふたみむら洪民村こいは恋こいしかり

おもひ(い)での山やま

おもひ(い)での川かわ

石せきをもて追おわるるごとく

ふるさとを出いでし悲かなしみ

消きゆるときなし

やはらかに柳やなぎあを(あ)める

北上きたかみの岸きし辺へ目めに見みゆ

泣なけとごとくに

ふるさとの山やまに向むかひ(い)て

言いふことなし(う)

ふるさとの山やまはありがたきかな

かなしきは小樽おたるの町まちよ

歌うたふことなき人ひと人ひとの

声こえの荒あらさよ

さいはての駅えきに下おり立たち

雪ゆきあかり

さびしき町まちにあゆみ入いりにき

締め切り 月 日

名前